

平成 29 年度第 1 回岡崎市総合教育会議会議録

日 時 平成 29 年 8 月 22 日（火） 午後 4 時

場 所 岡崎市役所東庁舎 2 階大会議室

出席者

市 長	内田 康宏
教育委員会	高橋教育長
	小出委員
	岡田委員
	福應委員

議 題

- (1) 新学習指導要領の実施について
- (2) 今後の教育関連事業について
- (3) その他

○総合政策部長

少し定刻を過ぎましたけれども、平成29年度第1回総合教育会議を開催致します。午後4時まで傍聴人の受付をしましたが傍聴人はございませんでした。

本日の議事進行につきましては、岡崎市総合教育会議設置要綱第4条の規定により市長にお願い致します。それでは市長よろしく申し上げます。

○市長

只今より、平成29年度第1回総合教育会議を開催します。

この総合教育会議は、市長と教育委員会が円滑に意思の疎通を図り、本市教育の課題や、あるべき姿を共有し、連携して効率的に教育行政を推進することを目的として、平成27年度から設置しております。

今回、平成29年度における第1回目の開催となりますが、本日の会議では、「新学習指導要領の実施」について、また、平成30年度の当初予算編成に向けた準備が既に始まっておりまして、今後本格化してまいりますので、教育関係の事業につきましてのお考えをお聞かせいただければと思っております。

それではお手元の次第に従いまして、会議を執り進めます。

まず、議題1「新学習指導要領の実施について」企画課長より説明をお願いします。

企画課長

本年3月末に改訂されました新学習指導要領につきましては、今後移行期間を経て小学校で2020年度、中学校におきましては2021年度の全面実施を予定しております。今回の改定を受けまして本市の取り組みについて教育委員会学校指導課より説明をお願いしたいと思います。

学校指導課長

新学習指導要領の実施について説明をいたします。お手元の資料をご覧ください。まず1ページに全面実施までのスケジュールを載せさせていただきました。先ほど企画課長の方から話がありましたように、小学校では32年度より中学校では33年度より全面実施となります。それに伴い、小中学校ともに来年度の平成30年度から移行期間として1部教科または内容を先行実施をいたします。

2ページをご覧ください。2ページからは年間標準授業時数を載せさせていただきます。2ページ上段は現行の学習指導要領の時間数を表しています。現在岡崎市の小学校では、英語活動の特例校指定を受けておりますので、2ページの下段の表のように黄色で示した教科時間数を調整し、すべての学年でモジュール方式による英語活動を週1時間分年間35時間を実施しております。

3ページには来年度から移行期間における時間数を載せてあります。来年度からは道徳の教科化、3,4年生での英語活動、5,6年生の教科としての英語が新たに始まります。時間数としては現在の英語活動の特例校指定を維持しつつ、ピンク色の英

語活動の 15 時間分ウグイス色の英語 15 時間を増時間として実施します。平成 32 年度からについてはまだ詳細が文科省から出されておられません。現在のところではさらにこの表から 20 時間ずつ英語活動と教科の英語が増時間となります。

4 ページをお開きください。4 ページからは今回の改定のポイントを載せてあります。太文字で示した文言が、新聞等でもよく目にするものであります。まず 1 の社会に開かれた教育課程ですが、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成していくことを重視しています。2 に示した主体的・対話的深い学びですが、これからの時代に求められる資質・能力を育成していくための授業の活性化が求められます。3 に示したカリキュラム・マネジメントですが、限られた時間の中で教育課程に基づいた教育活動の質を向上させ、効果最大化を図るという点で教科の枠を超えた教科横断的な学習の充実が求められております。

5 ページの 4 には、教育内容の主な改善事項を列記しました。これらについてはその下の岡崎市における関連する教育施策と合わせて説明をさせていただきます。

まず、5 ページ下の 3 番であります。理科教育の充実についてでありますけれども、平成 25 年度よりスーパーサイエンス推進事業を岡崎市の教育予算として実施しております。そして拡大を図ってきております。理科授業の学びが現代社会や未来社会の創造につながるという点で新しい学習指導要領が求めております、社会に開かれた教育課程にもなっていると考えます。また、小学校の推進校には、6 校であります。理科実験観察アシスタントを配置しております。

5 番の外国語教育の充実について説明をします。先ほど説明をさせていただきましたように、岡崎市はモジュールにより英語活動に取り組んでおります。この他にも、担任・ALT・ST による授業も実施しております。英語活動には力を入れているところであります。来年度からの授業時間増に向けて、ALT・ST の増員・充実に努める必要があります。また、現在中学校では、一切日本語を使わないグローバルコミュニケーションタイムとして、20 時間ほどそういった授業を行っておりますが、英語教育の方策として一日中英語しか使わない環境を作り出すイングリッシュデイキャンプといったものも検討すべき課題だと思っております。

6 番の情報活動能力についてです。現在、全中学校でタブレット端末を配置して授業実践を積み重ねていますが、今後の学校教育において ICT 環境の充実は欠かすことができません。プログラミング教育の必修化が本改定でも非常に話題になっております。必修化といいますが、この必修化につきましては、教科としてプログラミングが導入されるのではなく、算数や理科、総合的な学習の時間の中で取り扱うこととされておりますが、学習指導要領では具体的に何年生でどんなことをプログラミングで教育をなささいということは示されていません。今後、市教委としましては岡崎市としてプログラミング教育をどのように進めていくかということ、内容について体系化をするとともに、必要な研修そして環境整備を図っていきたいという風に考えております。

7 番の部活動についてです。7 ページです。このことも教員の働き方改革に伴って

関連して昨今話題になることが非常に多いキーワードです。部活動は子供たちにとって学校生活の中で大きなウェイトを示しているものです。教師の働き方の側面だけではなくて子供たちの健康や地域活動への参加という面からも、論議されなければならないと考えております。しかしながら部活動の指導には保護者から、熱心で高いレベルの指導が求められているのが現状です。現在の外部指導者を配置しておりますが、その増員と充実を図っていく必要があると考えております。

8の子供たちの発達の支援についてです。障害に応じた指導、日本語の能力に応じた指導、あるいは不登校など、適応指導のより一層の充実が求められています。授業から特別に個々を取り出して指導をするということで、個別の教育課程を作成するなどカルテ的な個の趣向の充実が求められております。しかしながら、国や県からはその充実に対する人的な加配はありません。そのため、学校からは教員補助者の増員の要望が年々増え続けており、市の教育予算でも配慮していただいております。また、ハートピアの増設、指導員の増員、スクールソーシャルワーカーの配置を行って、現在、個のこういった特別の支援を要する子どもたちへの対応をしております。資料に対しての説明を以上で終わります。

市長

ただ今説明がありました。何か質問等・意見等がありましたらよろしく願います。

高橋教育長

一つしっかり教えて欲しいのが、岡崎市は他の市と違って特例校指定を受けて小学校の英語を今までやってきた。今回文科省から国から出ている外国語教育を取り入れていくときに、大きな変化とはどういう変化があるのか？もうすこし詳しく。

学校指導課長

現在、岡崎市の特例校指定は、2ページのところにあります1,2年生の生活科を週1時間、3,4年生の総合を週1時間これを英語に変え、そしてその英語を毎日お昼あるいは朝、ALTが出演するDVDを使って耳と発音を慣れさせるというふうで、毎日行っております。来年度から増設される15時間ずつの3,4年生の英語活動と教科の英語でありますけども、15時間についてはモジュールという細切れで分散をして授業を行うということではできなくて、確実に1時間ずつ年間15時間やりなさいという文科省からの指導であります。大きく変わるのは、今まではモジュールで年間35時間やっておれば良かったのですが、来年度からはさらに最低でもその15時間ずつが加わってくると、そこが大きな変化であります。移行期間後、5,6年生については、教科化になりますので、教科書が採択され使用され、評価もつけていくと、そこが大きな変化になります。

高橋教育長

15時間というのがわからない。いわゆる、年間各教科35時間なので、15時間ってどうやって授業に組み込んでいくのかそこがよく理解できない。毎週やらないということか？

学校指導課長

毎週やらなくても年間に15時間やっていればいい。文科省は総合の時間が普通でいくと70時間ありますので、その70時間の内15時間を英語活動あるいは教科の英語に変えてもいいとは言っているのですが、岡崎の場合は、すでにモジュールで総合を35時間分英語に変えていっておりますので、そういうことは行わず、15時間確実にとっていくということになります。

高橋教育長

毎日10分ずつやってきた。週50分やっていたけど、それを年間15時間やれということに変わってきたということですね。

市長

岡崎は岡崎のやり方でやっていていいわけですよ。

教育監

結局、15時間というのは、本格実施の時には35時間プラスしないといけないんです。今、全教科の授業実数プラス35時間。それがなかなか難しいのでとりあえず15時間この先2年はプラスしてやりなさいと。岡崎市の場合、これまで特に英語については特例校ということで岡崎独自の方法でやってきておりました、それが定着しておりますのでそれはそのまま残して、あと15時間については、各学校自主的に英語の先生を入れて大体12時間くらい自らやっておりましたので、それを今回文科省が言ってきた15時間に置き換えてやっていけば、そんなに学校としては混乱はしないだろうと。岡崎独自のルールでやりますし、文科省にやれと言われていたことについてもやっていく。充実を図っていくという方法です。

高橋教育長

現状は、新しい制度は、岡崎は今までと大きな変化はないと。若干の修正を加えるということで十分に対応ができるということですか？わかりました。

福應委員

外国語教育ということでALT・STの充実とありますが、岡崎が先行してやっているということで、一昨年度、本宿小学校が中心になっていました。いま研究関係では六名小学校が委嘱を受けて先行研究をしているということで、それをいろんな形で

各小学校に広めていくことが必要。そういった中で、ALTとかSTという先生方の充実を図ることが必要かと思う。地域には海外派遣等で行っておられて英語の達人な方がたくさんおられると思いますから、ぜひそういった方々を活かすと言いますか協力を得ながら、若干の手当てを引き出しながら学校に協力いただいて、確保していきたい。ALTについては増やす方向でいきたいなと思っている。

先だって、英語のスピーチコンテストに出ましたら、小学生でも本当にうまいと言いますかわかりやすい英語で話している。小学校の先生方、ALTとSTとももちろん担任の先生もついて小学校英語をやるので、いろんな形で研修をしながら、力をつけていくことが必要かと。合わせて15時間。あんまりそれらが長期休業に影響ないようなかたちで、話をしたい。ぜひ子供の力・教師の力をつけて地域の協力を得ながら英語の力をつけていく方向を考えていきたいと思っている。

小出委員

先ほど課長からこの資料に関しての説明をいただいて、やはり現場の教師の皆さん方のお考えになることは、現場のあり方をどうしたらいいか。文科省の学習指導要領を踏まえた上で岡崎ではこうしたいという要望・希望は、施設整備はさておき人的配置で、そこをなんとか充実したい。現実子供を目の前にしながら仕事なさっているとこで必要なのは補助者あるいは専門性を持った人ということだろうと。一方思ったのが、ここまでのことを先生方がやっていけるのかなと。教師の仕事はあまりにも多岐に渡っていて、これに上乗せでタブレット教育で、今まで一度も自分でプログラム組んだことのない人にやらせるとか、それについてのガイドラインだとかプログラミングをされてないまま押し付けられている。弱い方、あんまり頑張れない方、障害がある方とか外人の方とかを見ているとこの人たちの将来はどうなってしまうのかという思いが強い。

家族関係、家庭のこともありながら、その子たちがもし救われるとなると何年間かけて、教育という場の中でなんとかその子たちをレベルアップしてサポートして育て上げていく。それが社会の安定にもつながる。もちろん、エアコンの問題だとか施設改修の話は伺っていますけど、まずやれることならば、市としての努力は人的配置のところに向けていただければ本当にありがたい。

理科教育、これはプログラミングの話とつながるのですが、新聞等でみていきますと、理系女(リケジョ)の人気がある。実際に、今の日本あるいはグローバルな動きというのは、理科教育があって、文科系よりも理科系の人材を社会が欲しがっている。一方新聞等で見てもプログラマーを探そうと思ってもなかなか日本人は少なくてインドなどから募集をかけてきてという状況をみてきますと、理科教育の充実というのは非常に大事だろうなど。理科の教育というのは、実際面白がるのは実験をやったり、単純なことですけど試験紙の色が変わったり、これをやったらこれができるとか見ていく。理科教育の実験のところはやっぱり子供は面白がっている。そういう場面設定をできるかぎりしてやるには、もうちょっと上手い教育の仕方・提示の仕方があるの

ではないかと思うので、そういうところにも、コストを掛けなくていいから、知っている方がお手伝いしてくれるとか、こういう面白いものがあるんだとみせてもらうとか、それを実際の日々の教育の場とつなげていくような場面設定を勘案していただきたい。

財政部長

昨年度も、教員補助者の増員について、校長会等から特別重点要項として要望をいただいております。今年度予算では配慮させていただいたところであります。何が予算上必要かというのは教育現場で働いて見える方が一番お分かりであり、岡崎市の予算編成においては枠予算を採用し、事業の優先順位をつけて予算計上していただいております。確かにおっしゃるような人の話と施設の話と違うのかもしれないですが、教育委員会として優先順位をつけてお話しいただければ、それについては十分配慮させていただくつもりでありますので、よろしく申し上げます。

小出委員

教育委員は全員、市側で人員配置について特別に考えてもらっていることは重々わかっております。それを踏まえた上でさらにお願ひしたい。

総枠制というのはわかりませんが、施設整備関係あるいは管理部分に関わる経費と、実際の学校教育に関わる経費の部分は切り分けて考えていただきたい。契約の差金が出ることを踏まえた上で学校教育費へのご配慮をいただくような操作をお願いできないか。不用額が生じたからといってあとは好きに使ってということではないです。予算立ての段階から、一応定例的な数字をご覧になれば大体毎年このくらいの差額が生じるというのが取れると思うので、それを踏まえた上の採配をいただけるといい。

岡田委員

岡崎市がより、またたくさんの人に住んでいただけたらとか、イメージアップにつながることを考えると、やっぱり教育というのは1つの大きなものだと思う。特に若い世代にとって。岡崎市の教育って昔から優秀な子たちトップの子たちに対してはルートが整備されているような気がします。そういう子たちは、その子たち自身に力もあるしバックアップする側もある程度そういう道筋というか整備がされていると感じるのですが、そういうところに入れないうちの子たちにとっても住みやすいなと感じれる場所であってほしいなと実感します。そここのところをどうやって底上げしていくのかというときに、補助の先生や専門職に人が入っていただくというのも大きなことですし、すでにいらっしゃる現場の先生方のいろんな理解というか気にかけていただく啓蒙活動というかそういったことにも力を入れてやっていけるといいかなと思います。やっぱり教育の現場でマンパワーが欲しいというのが大きな部分があるのですぐにどうにかして欲しいという話ではなく、そういう願いが積もっているということを知

っていただけるといいのかなと。

教育の現場ではなく自分がいるような現場で、医療観察法という法律ができたんですが、同じ病気の方を診るのでも、池田小学校の方で、いまものすごいお金をかけたので、すごい手厚いマンパワーなんです。一人の患者さんに対してものすごい専門スタッフがつくことで大変な方もそれなりに道筋が立っていく。ここの人たちよりもっと大変な人たちがそうじゃない状況におかれると、ケアできるスタッフの数が全く違うので、全く違う道を進むことになっちゃうというのをまじまじと見ていると、人の数は重要かなと、特に人を育てる部分というのはとても重要だなと感じます。

その次にその人たちの個々の資質が上がれば、もしかしたら人を減らしても対応できるようになるかもしれないし、その資質を上げるためには現場の人たちがより広い知識を持っていただくというのでも必要なのかなと。こういったところに力を注いでいけるといいのかなと思います。

市長

それでは、意見も出尽くしたようですので次の議題に入ります。

議題2「今後の教育関連事業について」ですが、現在、来年度の予算編成に向けて準備を進めているところでもあります。議題1との関連もあろうかと思いますが、教育委員の方々よりご意見等ございましたらよろしくお願いします。

小出委員

医師会に入ってからほとんどやっていたのが高齢者対策みたいなことなので、教育に関わらせていただいたら、自分がどう考えていいかわからないみたいなことがあって、漠然とすごく大きい問題だなと思う。いろんな話がありますがけれども、教師というのは大変な仕事だなというのがあって、資料を読んでも、僕だったらとてもできないような負担がどんどんかかっているのが事実で、と同時に教師の皆さんの資質・モチベーションが直接子供に影響を与えますので、そこのサポートというのは今後教員同士の間でのサポートだけでなく何かないと大変じゃないかなと。心情的に支えられている、理解してもらっているということがわかるだけでも、教師の皆さんは頑張りきれ。その職業を選んだ限りは頑張ってもらおうという体制づくりをしなくてはいけない。それはまた別の問題として考えた方がいい。多分そういうところにサポーターみたいな方があるということは、心の安らぎに繋がるでしょうし、もうちょっと頑張ってみようとの動機づけにもなるでしょうから、ぜひともご配慮をいただきたい。

高橋教育長

小出先生の心配していただけることはありがたくて、現状、岡崎の教員たちのアンケートをとると多忙感がたくさんあるけれども、現状は、それを上回る充実感や満足感を得ているのが今の岡崎の教員の実情であって、10年前の職場の雰囲気アンケートについては、ほぼ良いという教員たちが30%なんですけれど、今現状は、去年・

今年度のアンケートでは、現場の雰囲気は良いと答えたのは75%で、おおかたの教員たちは今の職場に充実感・満足感を得ているというのが実状。ただ、精神に関しては疲労しているということもあるので、それはサポートは必要だと。いろいろ国からの要求があるけれども、スーパーサイエンススクールも岡崎の独自の予算だし、ALT・STも岡崎の独自予算で雇っている。ICTの支援員も岡崎の独自予算。234名の教員補助者も市の独自予算でやっていただいているので、市の独自予算でいろんな教育に金をかけていただいているということは重々承知をしております。上を言うときりがありませんから、我々も理解しながら市と協力しながらやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

福應委員

平成10年に総合的な学習時間ができたときに岡崎市では先進的に指導傾向ができたわけです。それで岡崎の総合学習の時間が充実したなと思っております。ある程度研修と同時にモデルプランができてくると、それを基にして各学校が計画できる。教員研修と合わせてモデルプランをつくっていくことで上手く進んでいくんじゃないかと思えます。総合学習時間をこれ以上減らすと岡崎は大変なことになりますので、教科横断的になることで効率化が図れてより能率の上がる指導もでき、それが若干なりとも多忙化解消につながればいいのかなと思えます。

市長

すでに、議題3の「その他」の意見交換もされているようですが、他によろしいですか。

本日は大変貴重なご意見をいただきありがとうございました。

以上で本日の議事はすべて終了いたしました。

これをもちまして、平成29年度第1回総合教育会議を閉会といたします。これからもどうぞよろしくお願いいたします。